



共同体感覚の歌

創始の師なるアドラーと
ドライカースとシャルマンと
多くの師たちと同学と
教えを頼りに学ぶべし

人はひとりで生きてゆけなくて
社会を作って互いに助けあう
動物の群と社会が違うのは
得られたものを分かちあうところ (1)

男と女が出会って愛しあい
子どもを作って女は育児をし
男は狩りで獲物を獲ってくる
みんなを分けてみんなを生きていく (2)

男は男の仲間をもっており
女は女の仲間をもっていて
助けあったり融通しあったり
一緒に暮らす村ができてゆく (3)

村にはみんなを祭る神がいて
神の掟で人は生きていて
疑う者はひとりもなかったし
それで暮らしはうまくいっていた (4)

隣の村には違った神がおり
違った掟で人は生きていた
自分の神に人は満足し
どちらの掟もうまくいっていた (5)

異なる神をいただく人々と
出会ったときにはふたつの道がある
相手の神も受け入れうやまうか
相手の神を認めず滅ぼすか (6)

ローマは巨大な帝国作ったが
征服された神をも受け入れて
多神教の国家を作り上げ
多様な価値を併存させていた (7)

キリスト教はローマの辺境で
ユダヤ教を母体に生まれたが
自分の神の他には認めない
戦闘的な一神教だった (8)

ローマの中で次第に発展し
迫害を受けかえって強くなり
ついには皇帝までもが改宗し
他の信仰をすべて禁止した (9)

さらには内部の異端を肅清し
独善的な教義を作り上げ
暗黒時代がこうして始まって
古代の文化の光は消え果てた (10)

アラビア人から古代の知恵を知り
ルネッサンスの動きがはじまると
キリスト教にも批判が続出し
宗教戦争世界を巻き込んだ (11)

相手の神は実は悪魔だと
徹底的に互いを排撃し
血で血を洗ういくさが続くうち
戦うだけの気力もなくなった (12)

国々集まり条約結ばれて
信教自由の原則認められ
理性で決めた法を優先し
神の掟で裁くのをやめた (13)

神の掟は次第に忘れられ
理性で価値の基準を考えて
最大多数の最大幸福を
求める近代社会が出来上がる (14)

しかしここには大きな問題が
潜んでいるとニーチェが見破って
神のかわりに理性を拝んでも
暗黒時代が来ると預言した（15）

近代思想は五つの間違いで
天国に似た地獄を創り出す
物質的にはきわめて豊かだが
精神的には空虚で意味がない（16）

ひとつは拝金主義の唯物論
金銭だけが意味のあるもので
売れるかどうかですべての価値を決め
売れないものの価値を認めない（17）

政治はもちろん金で左右され
金にならない学問見捨てられ
宗教までもがひたすら金儲け
心はそれだけ貧しくなっていく（18）

ふたつは弱肉強食自由主義
たくさん持てばたくさん幸福が
得られるものと人は思い込み
競争社会で互いに奪い合う（19）

生き残るため人を蹴落として
勝てば今度は負ける心配し
負ければたちまち社会の脱落者
いずれにしてもくつろぐことがない (20)

みつつは大衆迎合民主主義
人をあたかも原子のように見て
個性も歴史もみんな切り捨てて
多数の意見を正義と思い込む (21)

科学の真理は数では決められぬ
心のまこと数では決められぬ
地球の未来も数では決められぬ
愚者の多数が世界を破壊する (22)

よつつは自己中心の人権派
自分の権利の主張は抜け目なく
社会は自分に貢献すべきだが
他人の権利は知ったことでない (23)

自分の不幸のすべては人のせい
気に入らなければただちに糾弾し
謝罪と賠償きびしく要求し
世論の力で抹殺してしまう (24)

いつつは欲望全開機械論
自然を巨大な機械と思い込み
山を削って海を埋めたてて
森を切り取りゴミで埋めつくす (25)

原子核まで付けたり離したり
遺伝子だって自由に思うまま
社会の仕組みも勝手に作りかえ
わけのわからぬ混乱作り出す (26)

一次大戦ロシア革命を
経験したとき早くもアドラーは
近代思想の危険に気がついて
言いだしたのが共同体感覚 (27)

ゲゼルシャフトが契約社会なら
ゲマインシャフトは血縁共同体
近代思想はすべてを契約で
割り切ることで地獄を創り出す (28)

そういう批判はそれまでにもあって
制度を変革しようと試みた
人の心が変わらぬそのまま
制度を変えても悪くなるばかり (29)

社会制度を変えるその前に
個人の構えを変えなければならぬ
みんながゲメインシャフト感覚を
持つとき制度は自然に変わるだろう (30)

個人が生きる究極目標は
社会の中に居場所を見つけ出し
所属をとげて人から愛されて
仲間と一緒に暮していけること (31)

そのため人はみんなの幸福を
増進するようすべきことをして
みんなの不幸を招かないために
すべきでないことけっして手を出さぬ (32)

ゲゼルシャフトがこれらを入々に
強要するなら搾取につながって
個人は人間ではない道具と扱われ
疎外が起って不幸になるだろう (33)

個人がゲメインシャフト感覚を
持ってみずからみんなの幸福に
貢献しよう決心するのなら
人間らしい世界ができるだろう (34)

違いは制度にあるのではなくて
個人の心の構えの中にある
個人が他者を仲間だと思い
人ごとでないと感じることができ (35)

損得を超え評価を気にせずに
みんなのために真にすべきこと
相談しながら一緒に考えて
おこなうことが幸福への通路 (36)

まずは家族をゲマインシャフト化し
共同生活互いに与えあう
相手を裁かず話し合いで決め
力を合わせて問題乗り越える (37)

そういう家族が子どもを産み育て
家族はいつでも仲間でいてくれて
自分は家族の中で貢献し
役に立てると子どもが感じると (38)

勇気があって劣等感がなく
現実的な目標持ちながら
社会に対して責任果たしつつ
暮していける大人に育たろう (39)

学校もまたゲメインシャフト化し
競争ではなく協力基調にし
知識や技能をみんなで磨きつつ
世のため後立つ人を育てゆく (40)

そういう子どもが社会に出て行くと
社会の共通感覚変化して
形は契約社会のそのまま
心はゲメインシャフトになっていく (41)

職場も地域も国も人類も
競争ではなく協力大切に
分業しながらみんなで助け合い
分かちあいつつ暮していけるだろう (42)

人はひとりで幸福にはなれぬ
ゲメインシャフトに組み込まれることで
生きて行くべき道が見つかって
意味ある日々を送れるようになる (43)

そのためひとつのエピソードをとって
仮想的な目標調べよう
小さな一歩を踏み出すことでしか
ゲメインシャフトの感覚作れない (44)

砂粒磨いて大地を浄化する
空想的な話に聞こえても
ここから始めることしか道がない
自分が変わることから始めよう (45)

ひとつが変われば冗長性のため
それに連なる物語は変り
人生すべてに影響及ぼして
やがてすべてが協力的になる (46)

最初は意識と努力が必要で
油断をすると競争的になる
やがては自然に意識をしなくても
協力しながら暮せるようになる (47)

自分が変われば相手に影響及ぼして
相手も協力的に変わっていくだろう
そうしてみんなが協力的になり
平和な世界が実現するだろう (48)

得られた知識を人々と
世界の未来の幸福に
献げるように毎日の
学習実践励むべし

| | |
|------------------|------------|
| Version α | 2016/04/08 |
| Version β | 2016/04/12 |
| Version 1.0 | 2016/04/17 |
| Version 1.1 | 2016/11/20 |